

広島大学学術情報リポジトリ  
Hiroshima University Institutional Repository

Title	存在動詞を含む漢字二字熟語の日韓対照研究
Author(s)	南, 得鉉
Citation	ニダバ, 31 : 73 - 82
Issue Date	2002-03-31
DOI	
Self DOI	
URL	<a href="http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00048101">http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00048101</a>
Right	
Relation	



## 存在動詞を含む漢字二字熟語の日韓対照研究

南 得 鉉

## 1. はじめに

日本語は存在主体が[+animate]か[-animate]かによって存在動詞を使い分けるといふ文法的特徴を持つ。以下の2つの例を見られたい。

- (1) 机の上に熊のぬいぐるみがある。
- (2) 椅子の下に猫がいる。

(1)では[-animate]の「熊のぬいぐるみ」の存在を「ある」が表わしており、(2)では[+animate]の「猫」の存在を「いる」が表わしていることが分かる。この場合、(1)の下線部の「ある」を「いる」に置き換えたり、(2)の下線部の「いる」を「ある」に置き換えると以下の(3)と(4)のように据わりの良くない文になってしまうか、違う意味になる。

- (3) \*机の上に熊のぬいぐるみがいる。(ただし、物語の中で熊のぬいぐるみが生きものとして捉えられている場合は許容可能である。)
- (4) \*椅子の下に猫がある。(ただし、猫が死んで死骸として机の下に放置されていることを表わす場合は許容可能である。)

この(3)と(4)では、話者の判断等によって、存在主体が[+animate]であっても「ある」と共起することができ、[-animate]であっても「いる」と共起することができるということが分かる。またこの場合、「ある」は場所格が示されており、漢字で書くと「在る」となる。この「在る」は、上の例をとおしても分かるように[-animate]と共起することはない。このような使い分けの複雑さが日本語を母語としない日本語学習者にとって、極めて困難な学習領域でもある。

本稿では日本語の文法的特徴の一つである存在動詞をより明確なものにするためには他言語との対照が有効であると考え。なかでも、日本と韓国は共に漢字圏に属しており、

少なくない文法的特徴において共通性を持つとされている。

韓国語は形態的に存在動詞を1つしか持たない言語である。すなわち日本語では「ある」「いる」といったように使い分けが必要な(1)、(2)の場合も存在主体の属性とは関係なく、「있다/issta/(1)」という動詞だけで表わすことができる。しかしながら韓国語においても尊敬形式では存在主体が[+animate]か[-animate]かによって、動詞の使い分けが行われることが指摘されている(2)。また韓国語においても漢字熟語では「거주(居住)」「재고(在庫)」のように日本語の「居住」「在庫」のような漢字熟語に見られる存在主体の「animacy」による使い分けが見られる(3)。

本稿では、このように日本語も韓国語も漢字語が多用されるという点に着目し、日本語の存在動詞「ある」「いる」並びに韓国語の存在動詞「있다/issta/」に関わる日韓両言語の二字熟語を比較対照するものである。日本語の存在動詞「有(ある、在(ある))」「居(いる)」の間の「animacy」による対立現象が二字熟語においては日本語だけでなく、韓国語でも見られる可能性があることに注目した。本稿で採用した熟語は、次の(5)の下線部のような存在の意味を有する「在」「居」「有」を含む漢字二字熟語に限定している。

- (5) 佐賀市兵庫南二丁目の障害者生活支援センター「長光園」は来年一月、在宅の障害者を対象にしたパソコン講習会を開く。(『佐賀新聞記事データベース』より)

## 2. 研究の方法

本稿で用いる資料は、日本語と韓国語の辞書から「在」「居」「有」の漢字語を含む二字熟語から蒐集したものである。そして、これら存在を表わす三種の漢字語が前に位置する「在/居/有+○」形式と後に位置する「○+在/居/有」形式の2つの形式に分けて調べた。

本稿では「在・居・有」と存在主体の「animacy」との関係を検討しているのであるから、「animacy」とは無関係の用例は、当然除去しなければならない、たとえば“今”という副詞としての意味を有する「現在」は、生き物や事物の存在とは直結してはいない。この種の用例は本稿では扱わない。ただし“現場にありあわすこと”という名詞としての意味を有する「現在」は“ありあわす”主体が生き物や事物であり得るので、[±animate]として採用せねばならない。

## 3. 日本語の二字熟語

### 3.1 「在+○」形式と「○+在」形式

「在+○」の構造をとる二字熟語は、全部で46個であった。そのなかで [+animate]

の二字熟語が 35 個、[-animate] の二字熟語は 8 個、そして [+animate] の二字熟語は 3 個であった。「在+○」の資料を示すと以下のとおりである。

「在+○」形式

在位(ざいい) 在院(ざいいん) 在役(ざいえき) 在園(ざいえん) 在欧(ざいおう) 在荷(ざいか) 在外(ざいがい) 在学(ざいがく) 在官(ざいかん) 在監(ざいかん) 在館(ざいかん) 在居(ざいきよ) 在京(ざいきょう) 在郷(ざいきょう) 在勤(ざいきん) 在庫(ざいこ) 在校(ざいこう) 在国(ざいこく) 在室(ざいしつ) 在社(ざいしゃ) 在住(ざいじゅう) 在宿(ざいしゅく) 在職(ざいしょく) 在世(ざいせい) 在席(ざいせき) 在籍(ざいせき) 在俗(ざいぞく) 在宅(ざいたく) 在団(ざいだん) 在中(ざいちゅう) 在庁(ざいちょう) 在朝(ざいちょう) 在廷(ざいてい) 在天(ざいてん) 在日(ざいにち) 在任(ざいにん) 在判(ざいはん) 在藩(ざいはん) 在番(ざいばん) 在否(ざいひ) 在府(ざいふ) 在米(ざいべい) 在民(ざいみん) 在銘(ざいめい) 在野(ざいや) 在留(ざいりゅう)

「○+在」の構造をとる二字熟語は 26 個見られた。そのなかで [+animate] の二字熟語が 7 個、[-animate] の二字熟語は 6 個、[±animate] の二字熟語は 13 個であった。

「○+在」の資料を示すと以下のとおりである。

「○+在」形式

介在(かいざい) 外在(がいざい) 共在(きょうざい) 局在(きょくざい) 健在(けんざい) 顕在(けんざい) 現在(げんざい) 混在(こんざい) 散在(さんざい) 実在(じつざい) 常在(じょうざい) 所在(しょざい) 潜在(せんざい) 存在(そんざい) 滞在(たいざい) 墮在(だざい) 駐在(ちゅうざい) 点在(てんざい) 屯在(とんざい) 内在(ないざい) 伏在(ふくざい) 不在(ふざい) 僻在(へきざい) 偏在(へんざい) 遍在(へんざい) 臨在(りんざい)

以上のように、「在」を含む二字熟語の場合「在+○」形式が [+animate] との結びつきが強く、「○+在」形式では「+animate」と「-animate」の差がほとんど見られず、「±animate」に解釈される資料が多いことが分かる。

### 3.2 「居+○」形式と「○+居」形式

「居+○」の構造をとる二字熟語は全部で 4 個蒐集され、4 個すべてが [+animate] であった。この「居+○」形式の場合「居村(きよそん)」「居屋(きよおく)」といったものが見られたが、それぞれ“住んでいる村”“住宅”のような意味を表わしており、「～がいる」「～がある」のように存在主体の存在という記述が見られないため資料から省いた。

「居+○」の資料を示すと以下のとおりである。

「居+○」形式

居住(きょじゅう) 居然(きょぜん) 居中(きょちゅう) 居留(きょりゅう)

「○+居」の構造をとる二字熟語は41個見られた。そのなかで[+animate]の二字熟語は41個で、[-animate]及び[±animate]の二字熟語は見られなかった。この他に「落居(らっきょ)」「新居(しんきょ)」のようなものが見られたが、それぞれ“事のきまりがつくこと”“新たに建築した家”の意味で「animacy」との関わりがないと考え、省いた。

「○+居」の資料を示すと以下のとおりである。

#### 「○+居」形式

安居(あんきょ) 移居(いきょ) 逸居(いつきょ) 隠居(いんきょ) 燕居(えんきょ) 家居(かきょ) 寡居(かきょ) 客居(かっきょ) 閑居(かんきょ) 起居(ききょ) 寄居(ききょ) 鳩居(きゅうきょ) 僑居(きょうきょ) 群居(ぐんきょ) 穴居(けっきょ) 在居(ざいきょ) 索居(さっきょ) 雑居(ざっきょ) 山居(さんきょ) 散居(さんきょ) 住居(じゅうきょ) 常居(じょうきょ) 静居(せいきょ) 占居(せんきょ) 潜居(せんきょ) 遷居(せんきょ) 巢居(そうきょ) 村居(そんきょ) 謫居(たっきょ) 蟄居(ちっきょ) 転居(てんきょ) 同居(どうきょ) 独居(どっきょ) 入居(にゅうきょ) 平居(へいきょ) 屏居(へいきょ) 閉居(へいきょ) 別居(べっきょ) 幽居(ゆうきょ) 陋居(ろうきょ) 籠居(ろうきょ)

以上のように「居」を含む二字熟語の場合は、「居+○」形式も「○+居」形式の場合も[-animate]及び[±animate]のものは見られず、すべてが[+animate]のものであった。このことは[-animate]と共起しないという存在動詞「居る」の特徴が、漢字二字熟語においても現れていることを意味すると言える。

### 3.3 「有+○」形式と「○+有」形式

「有+○」の構造をとる二字熟語は全部で71個見られた。そのなかで[+animate]の二字熟語は「有人」「有夫」「有婦」の3個で、残りの68個は[-animate]であった。[±animate]の二字熟語は見られない。「有+○」の資料を示すと以下のとおりである。

#### 「有+○」形式

有位(ゆうい) 有為(ゆうい) 有意(ゆうい) 有因(ゆういん) 有益(ゆうえき) 有価(ゆうか) 有害(ゆうがい) 有蓋(ゆうがい) 有閑(ゆうかん) 有感(ゆうかん) 有期(ゆうき) 有機(ゆうき) 有休(ゆうきゅう) 有給(ゆうきゅう) 有業(ゆうぎょう) 有形(ゆうけい) 有権(ゆうけん) 有限(ゆうげん) 有功(ゆうこう) 有効(ゆうこう) 有妻(ゆうさい) 有罪(ゆうざい) 有産(ゆうさん) 有司(ゆうし) 有史(ゆうし) 有志(ゆうし) 有刺(ゆうし) 有事(ゆうじ) 有爵(ゆうしゃく) 有終(ゆうしゅう) 有衆(ゆうしゅう) 有償(ゆうしょう) 有情(ゆうじょう) 有色(ゆうしょく) 有職(ゆうしょく) 有心(ゆうしん) 有人(ゆうじん) 有数(ゆうすう) 有生(ゆうせい) 有声(ゆうせい) 有性(ゆうせい) 有税

(ゆうぜい) 有責(ゆうせき) 有線(ゆうせん) 有髯(ゆうぜん) 有段(ゆうだん) 有知(ゆうち) 有徴(ゆうちょう) 有道(ゆうどう) 有徳(ゆうとく) 有毒(ゆうどく) 有能(ゆうのう) 有配(ゆうはい) 有半(ゆうはん) 有尾(ゆうび) 有標(ゆうひょう) 有夫(ゆうふ) 有婦(ゆうふ) 有福(ゆうふく) 有望(ゆうぼう) 有無(ゆうむ) 有名(ゆうめい) 有余(ゆうよ) 有用(ゆうよう) 有要(ゆうよう) 有翼(ゆうよく) 有利(ゆうり) 有理(ゆうり) 有料(ゆうりょう) 有力(ゆうりよく) 有隣(ゆうりん)

「○+有」の構造をとる二字熟語は全部で35個見られ、そのなかで[+animate]の二字熟語はなく、[-animate]の二字熟語が35個であった。「有+○」と同様[±animate]の二字熟語は見られない。「○+有」の資料を示すと以下のとおりである。

「○+有」形式

烏有(うゆう) 官有(かんゆう) 含有(かんゆう) 共有(きょうゆう) 享有(きょうゆう) 遇有(ぐゆう) 具有(ぐゆう) 県有(けんゆう) 兼有(けんゆう) 現有(げんゆう) 公有(こうゆう) 合有(ごうゆう) 国有(こくゆう) 固有(こゆう) 所有(しゅゆう) 占有(せんゆう) 専有(せんゆう) 全有(ぜんゆう) 総有(そうゆう) 村有(そんゆう) 庁有(ちょうゆう) 町有(ちょうゆう) 通有(つうゆう) 道有(どうゆう) 特有(とくゆう) 都有(とゆう) 万有(ばんゆう) 富有(ふゆう) 分有(ぶんゆう) 併有(へいゆう) 包有(ほうゆう) 保有(ほゆう) 本有(ほんゆう) 民有(みんゆう) 領有(りょうゆう)

以上のように、「有」を含む二字熟語の場合「有+○」形式と「○+有」形式、ともに「-animate」との結びつきが強いことが分かる。また「有人(ゆうじん)」「有夫(ゆうふ)」「有婦(ゆうふ)」の3つの[+animate]の性質を持つものも「所有していること」という抽象的事柄として捉えられ、もはや意味上は[+animate]でなくなっていると考えられなくもない。

以上の資料を総合した結果、日本語における「在」「居」「有」を含む漢字二字熟語について以下のような結果が得られた。

<表1>日本語における漢字二字熟語

漢字語	在/居/有+○	○+在/居/有	計
在	46	26	72
居	4	41	45
有	71	35	106

## 4. 韓国語の二字熟語

### 4.1 「재(在)+○」形式と「○+재(在)」形式

「재(在)+○」の構造をとる二字熟語は全部で 30 個であった。そのなかで [+animate] の二字熟語は 23 個、[-animate] の二字熟語は 5 個、[±animate] の二字熟語は 2 個であった。「재(在)+○」の資料を示すと以下のとおりである。

「재(在)+○」形式

재가(在家) 재감(在監) 재경(在京) 재고(在庫) 재관(在官) 재교(在校) 재내(在內)  
재류(在留) 재미(在美) 재사(在社) 재상(在喪) 재석(在席) 재세(在世) 재속(在俗)  
재수(在囚) 재야(在野) 재영(在營) 재위(在位) 재외(在外) 재일(在日) 재임(在任)  
재적(在籍) 재정(在廷) 재조(在朝) 재주(在住) 재중(在中) 재직(在職) 재천(在天)  
재학(在學) 재향(在郷)

「○+재(在)」の構造をとる二字熟語は 22 個であった。そのなかで [+animate] の二字熟語は 4 個、[-animate] の二字熟語は 13 個、[±animate] の二字熟語は 5 個であった。「○+재(在)」の資料を示すと以下のとおりである。

「○+재(在)」形式

개재(介在) 건재(健在) 공재(共在) 구재(俱在) 내재(內在) 복재(伏在) 부재(不在)  
벽재(僻在) 산재(散在) 선재(先在) 실재(實在) 시재(時在) 잠재(潜在) 존재(存在)  
외재(外在) 유재(留在) 유재(遺在) 점재(點在) 편재(偏在) 편재(遍在) 주재(駐在)  
체재(滯在)

以上のように、「재(在)」を含む二字熟語の場合、「재(在)+○」形式の方が [+animate] と結びつきが強いのにに対して、「○+재(在)」の方は「-animate」に結びつきが強いと言える。

### 4.2 「거(居)+○」形式と「○+거(居)」形式

「거(居)+○」の構造をとる二字熟語は 13 個であった。13 個すべてが [+animate] で、日本語同様 [-animate] 及び [±animate] のものは見られなかった。この他に「거반(居半)」のような例があったがその意味が“ほとんど”のように「animacy」と関わりのないものであったため省いた。「거(居)+○」の資料を示すと以下のとおりである。

「거(居)+○」形式

거가(居家) 거간(居間) 거관(居官) 거려(居廬) 거류(居留) 거상(居喪) 거생(居生)  
거재(居齋) 거접(居接) 거주(居住) 거중(居中) 거처(居處) 거향(居郷)

「○+거(居)」の構造をとる二字熟語は全部で 46 個であった。「거(居)+○」形式同様 [+animate] が 46 個で、[-animate] 及び [±animate] のものは見られなかった。「○+거(居)」の資料を示すと以下のとおりである。

「○+거(居)」形式

가거(家居) 교거(僑居) 군거(群居) 기거(奇居) 독거(獨居) 각거(各居) 객거(客居)  
 과거(寡居) 누거(陋居) 동거(同居) 벽거(僻居) 병거(屏居) 산거(山居) 별거(別居)  
 분거(分居) 세거(世居) 안거(安居) 암거(巖居) 연거(燕居) 요거(饒居) 우거(寓居)  
 유거(幽居) 은거(隱居) 이거(移居) 이거(離居) 일거(逸居) 잠거(潛居) 잡거(雜居)  
 적거(謫居) 전거(奠居) 전거(轉居) 점거(占居) 접거(接居) 정거(靜居) 주거(住居)  
 차거(借居) 촌거(村居) 췌거(贅居) 칩거(蟄居) 택거(宅居) 폐거(閉居) 한거(閑居)  
 현거(現居) 혈거(穴居) 혼거(混居) 환거(鰥居)

以上のように、「거(居)」を含む韓国語の漢字二字熟語の場合、日本語と同じく [+animate] との結びつきが強く、[-animate] や [±animate] の性質は持たないことが分かった。

4.3 「유(有)+○」形式と「○+유(有)」形式

「유(有)+○」の構造をとる二字熟語は全部で 58 個であった。そのなかで [+animate] の二字熟語は 3 個、[-animate] の二字熟語は 55 個で [±animate] の二字熟語は見られなかった。「유(有)+○」の資料を示すと以下のとおりである。

「유(有)+○」形式

유가(有價) 유감(有感) 유개(有蓋) 유고(有故) 유공(有功) 유관(有關) 유괘(有卦)  
 유권(有權) 유급(有給) 유기(有期) 유기(有機) 유년(有年) 유능(有能) 유덕(有德)  
 유도(有道) 유독(有毒) 유력(有力) 유료(有料) 유루(有漏) 유리(有理) 유망(有望)  
 유명(有名) 유무(有無) 유별(有別) 유병(有病) 유복(有福) 유부(有夫) 유부(有婦)  
 유사(有史) 유사(有司) 유사(有事) 유산(有産) 유상(有償) 유색(有色) 유성(有性)  
 유세(有稅) 유세(有勢) 유수(有數) 유식(有識) 유신(有信) 유심(有心) 유여(有餘)  
 유용(有用) 유위(有爲) 유의(有意) 유익(有益) 유인(有人) 유자(有刺) 유정(有情)  
 유족(有足) 유종(有終) 유죄(有罪) 유지(有志) 유표(有表) 유한(有限) 유해(有害)  
 유형(有形) 유효(有效)

「○+유(有)」の構造をとる二字熟語は全部で 34 個であった。これも日本語同様 [-animate] のもののみで、[+animate] 及び [±animate] のものは見られなかった。「○+유(有)」の資料を示すと以下のとおりである。

「○+유(有)」形式



가유(假有) 겸유(兼有) 고유(固有) 공유(公有) 공유(共有) 관유(官有) 구유(具有)  
 국유(國有) 대유(大有) 만유(滿有) 민유(民有) 병유(併有) 보유(保有) 본유(本有)  
 분유(分有) 소유(所有) 시유(市有) 실유(實有) 영유(永有) 영유(嶺有) 오유(烏有)  
 전유(專有) 점유(占有) 천유(擅有) 초유(初有) 총유(總有) 통유(通有) 특유(特有)  
 포유(包有) 함유(含有) 합유(合有) 향유(享有) 호유(互有) 희유(稀有)

以上のように、韓国語の「유(有)」を含む漢字二字熟語の場合、日本語同様、資料のほとんどが [-animate] と強い結びつきを持っていることが分かった。

以上の資料を総合した結果、韓国語における「재(在)」「거(居)」「유(有)」を含む漢字二字熟語について以下のような結果が得られた。

<表 2>韓国語における漢字二字熟語

漢字語	在/居/有+○	○+在/居/有	計
在	30	22	52
居	13	46	59
有	58	34	92

韓国語の二字熟語の場合も、日本語と同様、「在」と「有」は「在/居/有+○」形式の資料が多いのに対して、「居」は「○+在/居/有」形式の資料が多く蒐集された。

## 5. 日本語と韓国語の比較対照

以上の日韓両言語における「在」「居」「有」を含む漢字二字熟語の資料を比較対照したものが<表 3>である。

<表 3>日韓両言語の存在動詞を含む二字熟語の比較対照

形式		日本語	韓国語
在	在+○	46	30
	○+在	26	22
居	居+○	4	13
	○+居	41	46
有	有+○	71	58
	○+有	35	34
計		223	203

＜表 3＞をとおして、「在」と「有」は「○+在/居/有」形式よりも「在/居/有+○」形式の方が多用され、「居」は「在/居/有+○」形式よりも「○+在/居/有」形式の方が多用されていることが分かる。このような傾向は日韓両言語で共通して観察される。

この＜表 3＞をさらに、存在動詞「有(ある、在(ある)」「居(いる)」が持つとされる [+animate]、[-animate]、[±animate] の 3 つの有生性に注目して分類したものが＜表 4＞である。

＜表 4＞日韓両言語の存在二字熟語の有生性比較対照

形式		日本語				韓国語			
		+animate	-animate	±animate	計	+animate	-animate	±animate	計
在	在+○	35	8	3	46	23	5	2	30
	○+在	7	6	13	26	4	13	5	22
居	居+○	4	0	0	4	13	0	0	13
	○+居	41	0	0	41	46	0	0	46
有	有+○	3	68	0	71	3	55	0	58
	○+有	0	35	0	35	0	34	0	34

この＜表 4＞から分かることをまとめると、以下の 3 点に要約することができる。

- ① 「在」を含む漢字二字熟語に関しては、日韓両言語とも「animacy」の用法にバラツキが見られる。すなわち「在+○」形式では [+animate] の性質が圧倒的に優勢であるが、「○+在」形式ではバラツキが大きい。とりわけ韓国語では [-animate] の性質の方がやや優勢のように思われる。
- ② 「居」を含む漢字二字熟語は、日韓両言語とも例外なく [+animate] の性質を保持している。
- ③ 「有」を含む漢字二字熟語は、わずかな例外はあるものの、日韓両言語ともそのほとんどが [-animate] の性質を保持している。

## 6. おわりに

以上、日本語の「ある」「いる」及び韓国語の「있다/issta/」に関わる日韓両言語における「在」「居」「有」の二字熟語をそれぞれ考察し、またそれらを比較対照した。

本稿をとおして分かったこととして、まず存在動詞の「ある」「いる」に見られる「animacy」の対立が、「在」「居」「有」を含む漢字二字熟語においても見られたこと、またこのような傾向が、存在動詞では「animacy」の対立を持たない韓国語においても見られたことをあげることができる。さらに日本語の場合、「在(ある)」は幾つかの特殊な場合

(4)を除いて [+animate] と共起することがないのに対して、「在」を含む漢字二字熟語では「在+○」形式と「○+在」形式の間で数量の差はあるにせよ、[+animate] との結びつきが強いことが分かった。このことは韓国語の二字熟語においても言えることである。

「在」「居」「有」を含む漢字二字熟語では韓国語においても「animacy」の違いが見られたことと、「○+在」形式に関して日韓両言語間にやや相違点が見られたことが指摘できたことには注目したい。

今回の考察では辞書の意味による分類及び考察にとどまったが、今後文レベルでの構文論的な観点から、「在」「居」「有」を含む二字熟語が持つ「animacy」について見ていきたいと考える。

付記：本稿の作成に当たり、古浦敏生先生に貴重なご助言とご指導をいただいた。  
感謝の意を表します。

### 【注】

- (1) 韓国語のローマ字転写は「The Yale System of Romanization」による。
- (2) 南(2001)を参照のこと。
- (3) 韓国語の「거주(居住)」「재고(在庫)」も日本語の「居住」「在庫」も漢字語「居」と「在」をとおして存在主体の「animacy」を推測することができる。  
(1)木村は広島に居住する。 (2)倉庫に売れ残ったCDの在庫がある。
- (4) 詳しくは、南(2000)を参照のこと。

### 【参考資料】

『広辞苑 CD-ROM』、1996、岩波書店  
『スーパー大辞林 CD-ROM』、1996、三省堂  
『YAHOO KOREA 국어사전(国語辞典)』、URL <http://kr.kordic.yahoo.com/>  
『佐賀新聞記事データベース』 URL <http://www.saga-s.co.jp>

### 【参考文献】

新村 出編(1991)『広辞苑』岩波書店  
南 得鉉(2000)「存在文の意味範囲－「有情物が+ある」を中心に－」『NIDABA』第29号 西日本言語学会  
南 得鉉(2001)「日韓両言語における存在動詞の尊敬形式に関する一考察」『NIDABA』第30号 西日本言語学会  
松村 明編(1995)『大辞林』三省堂  
李 崇寧編(1990)『뉴에이스 국어사전』금성출판사(『ニューエース国語辞典』金星出版社)